

## 第6期宮前区区民会議第7回会議

## 第6期宮前区区民会議第7回会議

- 1 日時 平成29年12月1日（金）午後6時
- 2 場所 宮前区役所4階大会議室
- 3 出席者
  - (1)委員 川田委員長 青柳副委員長 影山副委員長 荒川委員 老門（泰）委員  
老門（聰）委員 大久保委員 小田委員 黒澤委員 田辺委員 椿委員  
山田委員 山部委員
  - (2)参与 矢沢参与 渡辺参与
  - (3)事務局 小田嶋区長 堤副区長 小林向丘出張所長  
高階保健福祉センター副所長 松浦保健福祉センター担当部長  
小林道路公園センター所長 安藤総務課長 吉越生涯学習支援課長  
高石企画課長 米塚企画課担当係長 事務局（小西、岩下）  
  
総務企画局 今村企画調整課担当課長
- 4 議事 (1)審議経過報告①地域福祉部会  
(2)審議経過報告②みやまえ活性部会  
(3)区民会議フォーラムについて
- 5 その他の連絡事項
- 6 傍聴者数 0人

### 午後6時開会

司会（堤） それでは、定刻となりましたので、これより区民会議を開催いたします。

本日の進行を務めます宮前区役所副区長の堤でございます。よろしくお願ひいたします。恐縮でございますが、ここで着席をして進行させていただきたいと存じます。

それでは、会議開催に先立ちまして事務連絡をさせていただきます。本日の会議は川崎市審議会等の会議の公開に関する条例に基づき公開とさせていただいております。したがって、傍聴、報道機関等の取材許可をしておりますので御了承いただきたいと思います。また、会議録の作成に当たり、速記者に同席をいただいております。よろしくお願ひいたします。本日、発言のございました方々につきましては、後日、議事録の確認をお願いしたいと存じます。よろしくお願ひいたします。なお、確認後の議事録は区役所ホームページへ掲載いたします。

また、傍聴の方々につきましては、遵守事項をお守りいただき、本日の会議に関するアンケートへの御回答をいただくことになっております。

次に、本日の委員、参与の出席状況等について御報告いたします。区民会議委員につきましては、中里部会長、佐藤部会長、葛西委員、砂川委員、中村委員から事前に

欠席の御連絡をいただいております。参与につきましては、渡辺参与に御出席をいただいております。なお、石田参与、織田参与、添田参与、飯田参与からは事前に欠席される旨の連絡をいただいております。

## 1 開会あいさつ

司会（堤） それでは、議事に先立ちまして、宮前区長の小田嶋から一言御挨拶を述べさせていただきます。

区長 皆様こんばんは。本日は大変お忙しい中だと思います、また、大分冷え込んできている中を、第7回の宮前区区民会議に御出席いただきまして、まことにありがとうございます。皆様方には日ごろより区政の推進に際しましてさまざまな面から御支援をいただいております。この場をお借りいたしまして、改めて感謝申し上げたいと思います。

皆様方の熱心な御審議に支えられながら、この第6期の宮前区区民会議も順調に進んできておりまして、今回で年内は最後ということになります。前回の全体会から各部会においてさらに審議を進めていただきまして、本日は年度末の区民会議提案に向けて内容を御報告いただけるというふうに伺っております。本日もどうぞよろしくお願いいたします。

また、本日は、議事に入る前に、総務企画局の都市政策部企画調整課から、川崎市総合計画の第2期実施計画につきまして御説明させていただく時間をとらせていただいておりますので、そちらもあわせてよろしくお願い申し上げます。

では、本日も活発な審議をお願いいたしまして、簡単ではございますが、開会に当たっての御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

司会（堤） ありがとうございます。

次に、本日皆様のお手元に配付してございます資料の確認をさせていただきます。表紙が本日の会議次第でございます。資料1が座席表、資料2が委員・参与・事務局名簿、資料3が審議経過報告資料となっております。そのほかに、地域福祉コンシェルジュ構想についての解説が記載されたA4判のシートと、この後、総合計画第2期実施計画についての説明で使用いたします、市政だより特別号と、市民車座集会開催のチラシ、それから、みやまえ福祉フェスティバルのチラシをお配りしてございます。また、委員の皆様には、区民会議意見交換会のお知らせと、意見交換会への参加確認票をお配りしております。

以上が本日の会議資料でございます。不足等はございませんでしょうか。よろしくごございますか。

それでは、議事に入る前に、先ほども御紹介いたしました総合計画第2実施計画に

ついて、10分程度になろうかと思いますが、総務企画局都市政策部企画調整課担当課長の今村から説明をさせていただきます。よろしく願いいたします。

企画調整課担当課長 御紹介いただきました、総務企画局企画調整課担当課長、今村でございます。本日は貴重な時間をいただきまして、どうもありがとうございます。総合計画第2期実施計画素案の御説明をさせていただきたいと思っております。

初めに、かわさき市政だより特別号の裏面、8ページを御覧ください。

総合計画は、川崎市の行政運営の総合的な指針となる計画でございます。図にございますように、本市が目指す都市像やまちづくりの基本目標を定めた基本構想、基本構想に基づく5つの基本政策を体系的に推進するために政策の方向性を明らかにする基本計画、それから、これらのビジョン、方向性に基づき、中期的な具体的な取り組みや目標を定める実施計画の3層構造になっております。このたび、第1期実施計画が今年度で終了するというところで、現在、第2期に向けて計画の策定を進めているところでございます。

続きまして、表紙から1枚おめくりいただきまして、2ページを御覧ください。

ページの下の方に、平成28-29年の主な取組内容を掲載しておりますが、このような取組を踏まえまして、3ページ、「川崎市の現状と課題」でございます。初めに、「①将来を見据えて乗り越えなければならない課題」でございますが、本市の将来人口推計として、平成42年まで人口は増加し、その後、人口減少が見込まれております。平成32年には、高齢化率21%を超える超高齢社会を迎え、その後も高齢化率は上昇していくものでございます。

次に、ひとり暮らし高齢者数の推移でございますが、25年で5.1倍に増加しており、老老介護の問題などへの支援が必要になっております。

次に、保育所等利用申請者数の推移でございますが、親が共働きの世帯は既に半数以上になるなど、ここ10年で約2倍に増えております。

次に、公共建築物の老朽化の状況でございますが、10年後には公共施設の73.7%が築30年以上という状況になり、対応が求められております。

このような課題にいち早く対応し、②でございますが、「積極的に活用すべき川崎のポテンシャル」を最大限に活用して、③「新たな飛躍に向けたチャンス」を的確に捉え、第2期計画の取組を進めてまいりたいと考えているところでございます。

次に、4ページ、5ページを御覧ください。

見開きになっておりますけれども、実施計画につきましては5つの基本政策で構成されているところでございまして、基本政策1としては、「生命を守り生き生きと暮らすことができるまちづくり」でございまして、「全市一体となった強固な防災体制の構築」、「鉄道駅の安全性・利便性の確保に向けたホームドア等整備の促進」、「地域包括ケアシステムの構築のための地域ネットワークづくり」などの取組を進め

てまいります。

次に、基本政策2につきましては、「子どもを安心して育てることのできるふるさとづくり」でございまして、「保育需要の高まりに対応した保育受入枠の確保」、「子ども・若者への総合的な支援の推進などの取組を進めていきます。

次に、基本政策3につきましては、「市民生活を豊かにする環境づくり」でございまして、「市民・事業者・行政の協働によるごみの減量化・資源化の推進」、「多摩川の利活用による賑わいの創出」などの取組を進めてまいります。

次に、基本政策4につきましては、「活力と魅力あふれる力強い都市づくり」でございまして、「開業率の向上に向けた、市内での起業促進」、「魅力あふれる拠点形雑賀に、基本政策5といたしましては、「誰もが生きがいを持てる市民自治の地域づくり」でございまして、「地域と多様な主体をつなぐ中間支援組織の機能強化」などの取組を推進していきたいと考えております。

次に、6ページを御覧ください。

「特色ある各区の取組」でございますが、宮前区につきましては、「健康づくりや介護予防・認知症予防の活動への支援、障害者の自立支援・社会参画に向けた取組の推進」、「多様な主体と連携・協力し、住民と共につながり、支え合う地域包括ケアシステムの推進」などについて区計画に定め、取組を進めていくものでございます。

7ページにつきましては、本日、御説明はいたしません、「行財政改革の取組」につきまして掲載しております。

最後に、8ページでございまして、下の方に緑色の枠で掲載しておりますが、第2期実施計画素案につきまして、広く市民の皆様からの御意見を募集しております。本日は簡潔に御説明いたしました、実際は500ページを超える計画素案でございます。計画素案の本体につきましては区役所のほか、市民館、図書館にも配架しておりますとともに、ホームページでも御覧いただくことができます。御意見につきましては、郵送、持参、ファクス、インターネットの方法で御提出いただけますので、ぜひ御意見をお寄せいただきたいと思います。

それから、もう1枚の資料「市民車座集会開催」と書かれたチラシを御覧ください。市民車座集会につきましては、本日御説明をいたしました内容をさらにわかりやすく、市長が直接市民の皆様へ御説明し、意見交換を行うものでございます。12月16日（土）の開催を予定してございまして、午前10時から麻生市民館、午後3時から中原区役所で開催いたしますので、御都合がよろしければぜひ御参加いただきたいと思います。

簡単でございますけれども、説明は以上でございます。

司会（堤） ありがとうございます。御質問等ございますでしょうか。よろしゅうございますか。

きょうはどうもありがとうございました。

それでは、今村課長はここで退席させていただきます。どうもありがとうございました。

それでは、これより第6期宮前区区民会議第7回全体会議を開催いたします。これからの進行は委員長にお願いしたいと思います。川田委員長、よろしくお願ひいたします。

## 2 議事

川田委員長 それでは、改めまして、皆様こんばんは。

いよいよ区民会議も第7回ということで、9月に第6回をやってから、それぞれの提案につきまして審議を重ねてまいりました。ある程度の形はでき上がっていると思いますので、これまでの経過を説明していただきますが、本日、申しわけございませんが、両部会長とも大切な所用がありまして欠席しておりますので、ともに部会で審議を行ってまいりました、副委員長から報告をさせていただきます。

### (1) 審議経過報告①地域福祉部会

川田委員長 それでは、最初に、地域福祉部会、青柳副委員長よりお願ひいたします。

青柳副委員長 皆様こんばんは。改めて、先ほどお話がありました、本来、中里部会長が来てお話しされる予定でしたけれども、欠席ということなので、私のほうで報告させていただきます。

地域福祉部会は、中里部会長をもとに、メンバー、いろいろな意見を出し合いまして、やっとこの形になったということをもとに報告させていただきます。また、皆さんのお手元にある資料を見ていただきながら、かいつまんだところをお話しさせていただくような進め方をしていきたいと思ひます。

それでは、始めますので、よろしくお願ひいたします。

まず、活動経過といたしまして、ここに前回以降、10月25日、地域福祉コンシェルジュ構想推進講座、11月2日、地域福祉コンシェルジュ構想推進講座という形で、2回開催いたしました。この1回目のほうは、あんしんセンターの自立支援事業の紹介、また、弁護士の先生に成年後見人制度を解説していただきまして、出席者も我々も、非常に満足のお話を伺いました。こういうところで現時点活動している方々の意見は非常に重みがありまして、我々が想像していないようなことも意見交換の中から生まれてまいりました。これは今後の我々の企画をフィニッシュするとき非常に大きな力になるのではないのかなと考えました。

特に11月2日のほうは、2回目ということで、1回目に参加された方がまた改めて

違う講座の内容を聴講していただいて、その場で意見を出し合って、会場の中でも一般的な身近な問題を非常に討議されたことが大きな成果があったと思います。

ここで、自分たちがいつもちょっと気にしていながらなかなか気づかないことが、講師の方の言葉から出ました。それは、自分たち専門職であれば、相談に乗ったり問題を解決したりすることはできても、日ごろ生活の中に漂っている問題点、そういうものを見つけることはできない、それができるのは、日常、お互いに支え合っている地域の人たちである、ということでした。我々は今後、宮前区の中で、ともに暮らしやすいまちをつくっていく、明るいまちにしたいということであれば、根底はお互いが気づくことではないのかなと自分自身は感じました。

我々のテーマであります地域福祉コンシェルジュ構想、これもスタート時点でいろいろ部会員の中でお話しした結果、いろいろな意見もありましたけれども、こうやって日にちを重ね、会議を重ねていく中で、コンシェルジュということがどれだけ重みのあるものか、今後、そういうものが地域の中に浸透していくことが必要であるのではないかということは、日を追うごとに、あるいは会議をするごとに意識が高まってまいりましたので、ぜひともこういう形でコンシェルジュ構想が1つ実を結んで、宮前区の中に、それぞれのところに行けば、そういう環境の中でお話ができる、あるいはこういう悩み事があったのだ、あの人、悩んでいないのかなというような、お互いのつながりが非常に重要な構想でありますので、ぜひともそういう形でこれを実現したいなという思いはだんだんと強くなってまいりました。

2番、取組提案ということで、今、先にお話しさせていただきましたけれども、ここで、「地域で気づき、福祉につなぐ」、気づいたら次のところにつないであげる、我々は専門職ではないけれども、ちょっとした目を拾い出して、それを次のステップ、専門のところ、あるいはそういう場所を紹介してあげて、つなげていけたらいいなということが、会議の中では大きなポイントになっていることは、それぞれの部会員が考えております。

役割というのも、ここに書いたとおりのことなのです。「地域福祉の『周知・案内役』」、我々がどんな専門職を持っているわけでも、知識もないかもわかりませんが、そういうふうに右往左往している、迷っている人たち、あるいはそういう話を聞いた、だけど、ここへ行けばいいのですよ、こういうところでこういうのをやっていますよということが、我々のつなぐ1つの大きな意義があるものであると思います。

ここに書いてあります支援ということ、区民がお互いに持っていたら、そういうこともスムーズにいくという考え、仕組みがつくれるのではないのかという気がいたしました。これは部会員の中で、皆さんいろいろな意見を出した中で、仕組みをいかに作り出したら運用できる体制、スタイルに持っていくかが大きな今後の課題だと

いうことを重視しております。

また、フォーラムに、2回の中に出てきた参加者の中には、現業で実際にやっているプロの方たちのお話を聞いてみますと、あまりにも外に周知されていない。こういうことをやっているのだけれども、外に私たちのどんなことをやっているのだろうということを知ってもらえないがために利用されていかない面もあると。やはりそれは告知してあげる窓口が余りにも少ないのではないのかなという話も出てまいりました。そういう意味合いで、前回、2回のフォーラムは、大きな課題として、今後これを進めるに当たって、いかに周知していただくか、周りにそういうものを広めていくかということも、我々のコンシェルジュ構想の中に大きな役割があるのではないのかなということは、参加者の中にもお話しいただきました。

また、アンケートをいただいた中で、これは参加者の意見で大多数、コンシェルジュが必要だということは、やはりこれは一部のところにはそういうような施設、場所、人がいても、それが広まっただけではない現状ではないかと、そういう意味合いでは、いかにそういう場所を区内の中に設けて、近くの場所にそういうものがあるということであれば、生活する上でも非常に安心感が持てるのではないのかなという意見もいただきました。

あと、仕組みというのが、先ほどの話からずっと拾い出していただければおわかりと思いますけれども、担い手の確保を無償でボランティアでやれるということは恐らく限界があるのではないのかなと。でも、自分の住んでいるまちにそういうものをつくること、あるいはあいている時間があればそういうことをやってみたいという方も多分にいるのではないのかという気持ちも当然あります。あと、それに伴った活動支援、あるいはその中の研修会や情報交換の場の設定を順次広げることによって、1つのコンシェルジュ構想の足場がつくられていくのではないかということです。

仕組みの下の方に「理念の普及」ということで、広報PRということで、皆さんのお手元にあります、「まいcafeみ～や」という、このような形のもの、ランチョンマットを活用しようということで、試作品ですかね、実際にはこれは12月3日、ここにあります、カフェ、福祉フェスティバルのときに実際にこれを使って、このような形でコンシェルジュ構想の一環を理解していただければというものをつくりました。これは非常に色合いもいいし、また、書いていることが、コメントされていることが全てこれに含まれていると思いますので、こういうものがカフェの存在しているようなところ、あるいはもうちょっと手を広げて、そのような民間との場所にこういうものを置いていただいたら、PRもできるのではないのかなということで作りました。非常にいいものだと思いますか。色合いもいいし、書いてある文章というか、案内する1つのものでは、非常にできがいいのではないのかという気持ちが私にはありました。

あと、ページをめくっていただいて、ここで推進講座ということで、「研修会の企画・開催」、あるいは「既存の担い手の情報交換の場」、「地域福祉コンシェルジュ構想」の説明、やはりこういうことを何回も何回も繰り返しながら、こういう形のものがつくられていくのではないのかなということ、我々の言わんとしていることは、1人が、宮前に住んでよかったな、暮らしてよかったな、また、隣の人も、宮前に住んでよかったなと、それはお子様、お年寄りの方、あるいは障害の何らかの不自由な人たちも含めて、優しい宮前区で、心の通う宮前区ができたらいいなという願いがコンシェルジュ構想の中に入っておりますので、ぜひともこれは今までの経過を踏まえて、来年提出されるまでもうちょっといろいろな意見をアンケートなんかの再度確認とか、充実したものにして、1つの形にしていきたいと思います。

これを1つ1つ読みながらやっていっても意味がないのかなという気がいたしましたので、これは部会でいろいろな話の中からポイントポイントを拾い出したものを今お話しさせていただきましたので、報告はこれで終わりたいと思います。そんな形で報告させていただきました。どうもありがとうございます。

川田委員長 ありがとうございます。

福祉部会の方で追加して何か補足する方はいらっしゃいますか。ほとんど青柳副委員長がおっしゃったとおりということですのでよろしいですかね。

ここで、地域福祉コンシェルジュは、資格は必要ないよというふうになっています。資格を持つのであれば、専門機関でも行政でもいいわけで、その人たちではなかなか手が届かないところ、生活者の同じ立場で、いろいろな情報を持って、何かお話の中でアドバイスできるような、そんなことができれば、お互い、本当に助け合っていけるのではないかなということ、かえって資格はないほうがいいわけですね。

それでは、地域福祉コンシェルジュ推進講座をやってみましょうということになったわけですね。地域福祉コンシェルジュは、いろいろな知識を持っていただいたほうがいいということで、高齢者とお金という、皆さん、すごく気になるテーマで、講座を開催しました。そして、2回目では、地域包括支援センターは、ここに参加している方たちはすごく身近に感じてはいるのだろうけれども、実際、地域包括支援センターをどのくらい知っているのというところでお話を伺いました。参加してくれた方が、すごくよかったと。やはり知らないところはあるのですね。単に知っていると思っ込んで、そういったものが結構あるような感じがするのです。そこをきちんと理解することで、何かで皆さん方で集まった場所、または個人でお話をしているときに、こういうのがあるわよ、こういうふうにしたらいわよというようなアドバイスができる、そういった講座を、今後もやっていけばいいのではないかなというふうに思っています。ということですね。

青柳副委員長 そうです。フォーラムに参加された中で、ここもというお話があったの

は、高齢者とか、認知症とか、そういう方たちの問題もそうだけれども、子育てで若いお母さんたちが何か求めているものがあるのではないですかという参加者の声がありました。ですから、子育て世代の方にもこういうものが、違った角度から広がってってもらえるのではないのかなという気がいたしました。これはこの間の参加者の声を代弁させていただいたのですけれども。

川田委員長 ありがとうございます。福祉部会の方、今までやった中で、何か感じたこととかはございますか。大丈夫ですかね。ありがとうございます。

## (2) 審議経過報告②みやまえ活性部会

川田委員長 それでは、続きまして、みやまえ活性部会ということで、影山副委員長から報告をお願いいたします。

影山副委員長 本日は、本来は、佐藤部会長がここにおいて御説明させていただくという立場でございますが、彼は似顔絵のスキルというか、技術を持っていて、それで、きょう、今、活動して、地域の方々の輪をつくりながら、それこそ、スモールビジネスに何か実践的なことができるのではないかとこの張本人でございます。彼はちょうど今の時刻にそういう活動をしております。よろしく頼むよということでございましたので、部会長の意をどの程度うまく私が組み入れられるかどうかということと、それから、今、みやまえ活性部会ということで、お手元の資料、7ページ、8ページで、これに即して御説明させていただきますが、1つは、今までの経過がどうだったかということと、そして、それを踏まえて、なかなかこのくせ者であるスモールビジネスというのは、スモールという字が、大きなビジネスでも狙うような人も実は出てきたりしたのですね。人を集めて議論したときに。ところが、生ぬるいという意見もあった。それから、もう少し今ぐらいのところで、私たちは地域の町内会とか、そういう方たちとつき合っていくようなことのほうがいいのではないかと、はっきり言いますと、ビジネスの裏にはいろいろな濃淡があるということが今現在わかっております。したがって、それをある1つの一定方向に持っていくということについて、今後少し課題を含めて、方向性を明らかにしなければならないのかなというのが、今正直なところでございます。

まず7ページを見ていただきたいと思います。7ページで過去の経緯を申し上げますと、10月6日と一番上に書いてございますが、第3回お友達・お仕事さがしということで、会合をしました。実は10月6日の前に、8ページを見ていただきたいのですけれども、第1回、第2回と、水面下というか、ここに行くまでにこういう議論をしてきたのですね。第1回は、事務局としては、想定外と申しますか、多世代も含めて、お友達・お仕事さがしということで、地域について何かお役に立ちたいと、ボランティアだけではだめだと、何か1つビジネスにつながるようなものがあればいいね

と、そのことについて打ち合わせしましょうといったら、第1回は会議室がいっぱいになるぐらい来ました。これは今でも覚えております。そのときには、作品とか、活動の内容、つまり、自分がつくっている、かかわっている、自分のスキルを生かしたお人形さんとか、さまざまな作品、工芸品を含めて、そういうようなものを目の前に置いて、こういうような活動が、より輪をつくって広げていけばいいねという、立ち上がりには非常に力強い意見が出ました。

さて、それを踏まえて、次に、もう少しそれを絞ってみようかということでやった結果が、第2回でございます。このときに、よくあるのですけれども、足元の立ち位置が少しそれぞれ違ったり、目指す方向もそれぞれ違うという人たちに、1つの方向を提案したところ、最初に申し上げましたように、その辺についての濃淡が出てくるのです。これは当たり前のことですが、その中で、いわば絞り込むということについては、その人たちのみになりますので、そこをあえてせずに、少し様子を見ようということで、例えばこんな活動の仕方があるよということで、クラフト市、公園とか公共施設を含めて、イベントも含めて、そういうような場を設けてやってみたらどうかとか、それから、SHOP in SHOPというのは、今あるお店のあまり活動されていない日とか、そういうお店に、ママさんが自分の商品を置かせてもらったかどうかとか、特にこのときは野菜が出ましたね、野菜をお店の前で売らせてくださいとか、そういうSHOP in SHOPです。このようなことで、1回目に比べて2回目は、中身がグルーピングされてきたようなイメージが出ました。

さて、さらにそれで次に我々としては、そのものをもう少し輪も広げながらやっていったらどうかと、第3回で、ここで20人ぐらいが参加したのですけれども、ここに書いてあるとおりでございます。

ここは結論的には、1回目、2回目、3回目になってくると、ややもすると、ビジネスというものとか、それぞれの仲間づくりについて、イメージ的には少しずつ出て来だしました。そのうちの1つだけ申し上げますと、マルシェとここに書いてあります。「身近な地域でマルシェが増えていくと良い」。「マルシェサミットをしたい」。「SNSをとにかく始めてみてはどうか」。このグループの中で子育てママさんの中で少しパワーを持っている人が、ことし、鷺沼の駅前を皮切りに、マルシェという活動をしていて、その方が、ある意味では、こうしたグループの中の意見をリードするような動きがありました。私もそれも1つの方向かなというふうに今思っております。

実はその方が、参考のために申し上げますと、鷺沼でやったり、宮崎台の駅前で、公園で、非常におもしろいことをやりました。

そこでは、誰が来てもいいよと、誰かを排除するのではなくて、誰でもウエルカムでずっと人を呼んできました。人を呼んできて、そこで体験コーナーでもいいから、

主催者が自己責任でやってみたらどうかなど。少し稼ぐのもいいよという形でやっているのが、マルシェというもので、これは10月11日に宮崎台のおちば公園というところで開催しまして、アンケート調査もやりました。

ここには資料はないのですが、そこで、私はおもしろいなと思った人に取材して、きょう、ちょっとだけ申し上げますと、こんなことがあったのですね。マルシェですから、一定の、例えば10時なら10時に人が集まって、お店を開いて、そこで物を売ったり、サービスしたりします。それで、ある一定の時間が来たら、それで終わりです。ところが、その前と後でこういうことがあったのです。

町内会などで公園清掃を呼びかけても参加者は限られて、しかも、町内会に対するママさんたちの反応は極めてクールになっている。組織率もどんどん。つまり、今、非常に冷えきっちゃっている。しかし、住民、若いママさんたちは、ここが自分たちの居場所だという意識がどうも出てきているようだ。マルシェを持ち込んだ、その会場ですね。みずから公園清掃をしようと思うことが今回わかったと。つまり、地域に対して、私は町内会の人たちをどうのこうの言うわけではないのですけれども、やっぱりニーズをしっかりと押さえれば、もう少し絆なり、人のふれあいなり何なりがもう1回立ち上がってくるのではないかというのを、このマルシェを担当した人はみずからおっしゃっていた。これが私は大きな救いかなと。

スモールビジネスという名のもとで、金もうけするなら、それこそ株式会社にしたらいいのだけれども、ただ、地域とのかかわりを片一方で置きながら、こういう活動をするということの、つまり、公園などの公共空間を使いながら、住民は自分でそこに自分の生き方とか、生活とか、子どもたちも全部そこに行って友達をつくっちゃうというような場を企画した方がおっしゃっていた。

それは資料では8ページの下から3番目ぐらいですか、「身近な地域でマルシェが増えていくと良い」。別にマルシェだけではないですよ。さっき言ったようにSHOP in SHOPとか、いろいろございますから。どっちにしても、そういう地域の人たちを自然に、こういうのがあるといいよねというようなものを、その人はみんなの琴線に触れるような形に持って行って動き出したということです。これは今回のこの方向として私は大事なポイントかなと思っています。

そうした地域性というか、町内会さんとの付き合いというか、そういうようなものの視点を越えた付き合い方みたいのも実はそこにあるのではないかというのが、私は今までのところで得た結論の1つかと思っています。

それで、次、7ページに戻ってもらいますとか、7ページの「2)取組提案：(仮称)みやまえスモールビジネスネットワーク」とちょっと長いのですが、したがって、これは目的、参加資格、活動内容、ルールと4つばかり大きな見出しがございますが、これは読んでいただければこのとおりです。

今のところ、1つは、目的として、みずからの才覚でできる範囲内でできることを少しで地域貢献を目指したいという目的かと思います。それから、参加資格といっても、リトマス試験紙でそれぞれテスト、資格をするわけではなくて、ここに書いてございますように、定量的に把握はできません。「地域貢献の想いがある人」、100%ある人、1%しかない人、いろいろな人たちが、程度の差こそあれ、こういう表現しか今のことはできないようなイメージですね。それから、愛着の問題とか、協力の問題、「SNSで情報交換できる人」とございます。実はこのSNSが今大変な問題で、それこそ、子どもたちも今まさに携帯なしでは彼らたちの情報交換はできないような状況になっています。

私は、これはおもしろいなと思っていたのは、マルシェで聞いてみたら、意外と紙のチラシのほうがおもしろい、あれで人が意外と集まるんですというようなことを言っていました。だから、その辺ももうちょっと地べたに足のついた議論をすると、しっかりその辺はオールドメディアでもきちっとやっていく必要があるのではないかと、これは私のほうではなくて、マルシェをやっていた人が言っていました。

それで、こうした場合に、一応ビジネスですから、免責事項という問題が出ます。でも、一言で言えば、一番最初に申しあげましたように、やっぱり自己責任、私もいろいろな活動で人に意見を聞いて、お店で野菜を売っているのは、買った人もちゃんと見て買ってと、売った人も、だめなら、お客さん、つかないということで、一々検査機構、誰かが検査して、それをラベリングしてやっていくという方向ではなくて、あくまでも自己責任ということで、とりあえずスモールビジネスネットワークのほうは考えていくのかなという感じがしております。

それが7ページでございます。それから、8ページ。

そんなようなことで、今、現状としては、二、三の活用の団体のほうからそうした意見をいただきながら、今、進めておるところでございます。

現状はそうですから、来年に入ってどういう活動になるかということで、10ページの「区民会議フォーラム2018の開催について」ということで、日時、場所、中身について、もう少し議論をかためなければならぬのかなという感じで、今、かためると申しあげましたのは、地域性とか、エリアも大きくとるのではなくて、多分、小学校区ぐらいかなと私は思っています。広げ過ぎると、顔が見えない関係が出てきますので、その辺も含めて、スモールビジネスというものについて検討する課題は1つはあるのかなとっております。

大体そんなようなことで、報告を終わります。

川田委員長 ありがとうございます。活性部会の方、今の報告につきまして何かございますか。

事務局（岩下） 9ページの説明が。

川田委員長 今まで活性部会の方たちが集まりまして審議してまいりましたが、最終的に宮前区の若い人たちを取り込んでいこう、そのためにはSNSを使って、そこを活動の場所として情報を発信する場所とか、皆さんがつながっていく場所というふうにしてはどうかとなったわけですね。今、試験的に事務局と部会長で立ち上げたものが2つぐらいありますか。きょう、作業を行いました佐藤部会長がお休みですので、事務局の岩下さんのほうからそこら辺を、SNSのところを説明していただいてよろしいですか。

事務局（岩下） 9ページにあるのですけれども、こちらにあるように、10月26日と11月15日の2回で、1回目は影山副委員長にも御参加いただいて、佐藤部会長と交流の場としてのSNSの設置の作業を進めました。やってみると、思ったよりいろいろ時間がかかってしましまして、現状、とりあえずベースができて、ページができたというところ。情報もまだ少ないですし、いろいろ課題はあるのですが、今後、運用等していく中でいろいろ見ていきたいと思っております。

とりあえずここにあるように、FACEBOOKグループページというものと、ブログの大手でAmebaブログのところに仮に両方つくりました。やってみると、それぞれ利点、使いやすい、いいところと、悪いところとありまして、例えばFACEBOOKだと、投稿、新しいものがどんどん出るのですけれども、それを過去の投稿を見たいというときに、ちょっと探しにくかったり、ジャンル分けができなかったりするところがあるので、やってみて、そういうところで、Amebaブログと並行して、両方行き来できるようにしようということで、Amebaブログのほうは、ジャンル分け等がもう少しやりやすくなっているし、情報量もこちらのほうは載せられると思います。今後、佐藤部会長とも相談しながら、皆さんからもどんどん御意見をいただいたり、過去の会合に参加いただいた作家の方にもこれから見ていただいたり、情報投稿を呼びかけたりして、よい場にこれからなっていけばいいかなと思っております。

川田委員長 ありがとうございます。そうしますと、部会がこの後、企画部会は設定されていますけれども、両部会とも部会は今後ありますか。

事務局（小西） やる必要はあるかなと思っております。

川田委員長 今、予定ではないのですけれども、今の報告を聞きまして、まだ中途半端なところがありますので、しっかりと区長のほうに提案するような形にしないと、これは終わらないのではないかと思います。活性部会のほうも、一応方向性は決まっているのだけれども、まだ作業の段階で、ちょっと難しい問題も出てきているということですので、今後もそれを続けていくということで、きちっとした形まで持っていかないと、提案にはつながっていきませんね。

ここに関しましては、もう1度部会で話し合うのですか。

事務局（岩下） どうでしょうか。次の議題で今後の進め方とフォーラムの内容になる

と思うのですけれども、今までの報告内容について両部会で特になければ、次の進め方とフォーラムに入りましょうか。

川田委員長 今回は全体的には伺いません。それぞれの部会で一応方向性としては決まっているというふうに思いますので、同じ部会のほうで何か御意見とかありましたら、出していただけたらと思います。今、活性部会のほう、影山副委員長から報告がありました。委員の方たち、黒澤委員、お願いします。

黒澤委員 影山副委員長の話の中で、町内、自治会の話の中で、マルシェ、一緒に話している中에서도、こういうところでの質問というよりも、方向性というところで、私と山田さんは町内、自治会のほうからの推薦ということでございますので、その視点から見ると、今のこの町内とか自治会の使い方というのかな、スモールビジネス、これが自治会、町内の中立公平という立場からしまして、かなり大義名分が地域の方に、こういうところで皆さんの住みよい明るいまちづくり、皆さんのメリットがあるのよというふうな大義名分があって、それをマルシェの方向でやれるのであれば、自治会、町内としては方向性が出せるのですよ。そういうところの工夫ができれば、これは川田委員長、近隣自治会ですから、稗原ゆ〜ずだとか、地域、近隣自治会でそういう方向性というのかな。

要するに何を言いたいかという、こういうとてもいいものよというところをリーダーがつかむでしょう。そのつかんだ内容というものを我々、会長とかに理解をさせて、発表能力、発言能力は自治会の町内の会長というのはすごいんですよ。すごいんですよというのは、私もそれを体験して、本当にそう思うんですよ。その信頼の高い自治会長がそういうことを理解して、皆さんに説明できるような方向性かなど。そのマルシェで、スモールビジネスでも、大義名分さえ立ててくれたら、我々は全面的に協力できるということなのです。そういうお話。何かそこら辺がぼやとしたところ。ごめんなさいね、同じ質問している間の中で、変な質問ですけれども。

川田委員長 今、報告をということだったのですが、町内会・自治会の話というのは、部会の中では出てきていなかったことですね。これはあくまでも影山副委員長の私的意見というふうに捉えていただきたいと思います。とりあえず部会としては、若い人たちを取り込んでSNSをやっていきましょうということで方向が決まっておりますので、そちらのほうのお話をしていただければと思いますが、いかがですか。活性部会の方。

田辺委員 会合の中でも感じているのですけれども、川田委員長と私とでは、区民会議というものについての考え方に温度差があるのです。私は今回の、きょう、影山副委員長が発表された提案、区民会議の我々の仕事としてはこれで終わっている、十分だと、私はそういう認識なのです。従来の区民会議のやり方ですと、提案を出して、そこから先にその実施をどうするかということは、行政のほうで判断されてしかる

べき施策を打たれるというのが、これまでのパターンだったのですね。

第5期を経験されている方は御存じだと思いますが、4期以前と比べて第5期以降は、単なる提案というよりも、それ以上に踏み込んだ内容の、実際の実施案みたいなところまで踏み込んだことも確かなんですよ。それは重々承知しているのですが、今期の活性部会のテーマに関して言いますと、先ほど岩下さんから御説明がありましたけれども、ここまでフェイスブックとかでき上がっていて、ここから先が準備段階に入っちゃっているんですよ。ということは、提案以上の話になっていて、いわば市民活動としてスタートしかかっているんですね。ですから、先ほどから川田委員長おっしゃっているのですけれども、これ以上となると、グループというか、団体を立ち上げて動けばいいだけの話で、提案としてはこれで十分完成していると思うのですが、皆さん、いかがなものでしょうか。

川田委員長 とりあえずSNSを使った活動をしていこうということで、その立ち上げについては部会長と事務局にお任せしますよという話だったのですが、そのところが今まだ中途半端に終わっているというところで、もう少しそのところをきちっとした形で終わらせたいというのが私の気持ちなのですが、それから先ということではなくて、今、審議の中で出ている、そのところまでまだ行っていないので、そこまで終わらせたいと思っていたわけです。その報告の中で違う話が出てきたものですから、それはちょっと違いますよというお話をさせていただいたわけです。

ほかに活性部会の方、何か御意見のある方。

山部委員 今、お話を聞いて、田辺さんの御意見なのですけれども、今言われるように、これから進むと、金銭にかかわると思うのですね。商売、どうのこうのとなると。だから、そうすると、金銭がかかわると、そこまで以上に我々は行くことはできないのではないのかなど。今の状態ですよ。田辺さんの御意見の分で、ここまで行ったら次は渡さないといけないと、これ以上行くとお金になると思うのですね。だから、そのところはどういうふうに考えるかということだと思います。それを続けるかどうか。

川田委員長 わかりました。活性部会の中で、SNSを立ち上げましょう、それをやりましょうという話まで行きましたよね。そこなんです。そこから先をどうするかという話は私はしてないつもりなのですが、そのところをはっきり形にいたしましよということをお話したのですね。

山部委員 はっきりするのは、金のやりとりどうのこうのがあるかどうかというのは、決めないとまずいと違うんですか。金銭のことに関しては。ここから前に進めば、いろいろな分で、マルシェで売ったりなんかすると思うんですよ。そこまで踏み込んでいかどうかということですね。私の考えは。

川田委員長 わかりました。そのところは、また活性部会のほうでお話をしないと、

今、これのやりとりでは決まらないことです。ただ、今までの審議の中で決まったことはここまですというところを今お話したのですね。ですから、そこから先のことをお話しするのは、もしあるのであれば、それは活性部会のほうで皆さんでお話ししなければいけないことだと思っております。

今後、とりあえず予定はしていないのですが、このままでは終われないだろうということで、事務局としてはもう1回ぐらい考えていらっしゃるわけですね。ですので、そのときに、今のことも含めまして、きょうの御意見を参考に話し合っていたきたいと思いますので、ほかに活性部会の方で御意見のある方、いらっしゃればお聞かせください。大丈夫ですか。

じゃ、また部会のほうでそのところを話し合っていきたいと思います。

とりあえず、ここで今までの報告ということで、地域福祉部会とみやまえ活性部会のほうで報告していただいたわけです。

それでは、報告が終わったということですので、この後、事務局のほうでこの次の部会の日程とフォーラムの話ですか。

田辺委員 先ほどのこちらの部会の報告についての質問はいいでしょうか。当然、活性部会に対する御質問もあると思いますけれども、私はこちらの自分の属していない、福祉部会のコンシェルジュのほうについて質問です。

大体感じはわかったのですが、いまいち私がちょっともやもやしている部分があって。例えば仮に私がコンシェルジュになったとしますよね。そうした場合に、何か困った人がどうやって私を訪ねてくるのでしょうか。私がコンシェルジュということは誰も知らない。ひょっとして、表札の下にでも書くのか、あるいは逆に自分のほうから地域を動き回って、何か困っている人を探し出して声をかけるのか、その辺のイメージがちょっとわからないので。

青柳副委員長 今お話があったことが、この間のフォーラムにもありましたように、私たち、現業としてやっているのだけれども、行政関係でもやっているのだけれども、地域の人が知らない。どこにあるんだろう、あるいは電話をかけられるというところまでしていても、どういう話まで持っていったらいいのかなという、そういうところまでわからない人が多いということですね。今、田辺委員の話だと、自分が実際、その活動をボランティアでやりますと、だけれども、田辺さんがそういう活動をしていることを地域の人が知らないということがありますよね。それをいかに広めていくかというのが、まさしくいろいろなチラシ、あるいは広報、名札をつけていくのも1つなのですね。認知症のオレンジリングではありませんけれども、ああいうものも今後必要になってくるのですよ。

だから、いろいろなアイテムを使って、私はこういう活動をしていますよと、声を出してその場に行くことは難しいかもわからないけれども、やはり黒澤委員の今のお

話ではないですが、ここに通じてくるのが町内会・自治会なのです。行政なんかでもそういうものを区民会議の中で取り上げたということであれば、常々、行政に来る方々がおりますよね。そういう人たちが目につくような形で、何々を持っている、あるいは街角でこういうものをつけている人がいたら、コンシェルジュのあれですよということも目印としてやっていく必要があるのです。ですから、これはあくまでも広告に出したとか、そういうだけではだめなのです。地域の中でもこういう活動をしていますよということを、声を大にして言える場を持っていかなければいけません。これが12月3日に話される、いい機会でもあるのです。

それは現業をやっている方たちが自分たちの活動を通して、皆さん来てください、こういう話もできますよと、私たちはこういうことをやっていますよと、ここに書いてあるように、こういうところに行けば、あなたは相談できますよということもこれでできちゃうのです。ですから、決して、自分がこれをやっていますよと、一人が声を大にしたって大きな効果はないのです。やはりそれは地域の中につながってほしいということですね。田辺さんであれば、田辺さんの住んでいる場所の近くで、友達でもいいじゃないですか、俺は今度こういうことをやったんだよと。そうしたら、その友達は必ずつながっていくはずなのです。田辺さんがこういうすばらしい活動をしていますよ、何かあったら相談にいつてみな、これがつながっていくのですよ。

だから、マルシェのあれも全てそう。話が余談になるけれども、公園に来たお母さんたちが、物を買いに来たんだけど、そこでママさん同士がその場で初めて知り合った。それで、その人たちはすぐ公園でお友達になった。それが今、影山副委員長が言っていた生の声なのです。ですから、田辺さんも、もしそういう活動をしたのであれば、自分はこういう活動をしていますよと、自分で言うのもいいけれども、やはり地域の人たち、地域がそういう人たちの活動を世に出してあげる、そして、そういう人たちを、こういう場にいるのですよ、ここへ行ったらどうですかとつながっていくような方法をとっていったら、これはやっぱりすばらしい活動の一環になると思います。そんな形で、どこかに説明してありましたけれども、同じ部会員の方で、田辺さんのご質問に対してお話ができればちょっとしていただいたらいいのではないですか。また違う観点で回答があると思いますよ。

老門（聰）委員 私、福祉部会にいますけれども、私は外に出て行って活動するというのは余り考えていなかったのですが、ただ、講習に来てくださっている人が体操の指導員であったり、子育てサロンをやっている人だったのですが、そこで気づきということ講師の先生がおっしゃったので、私のところの体操に来ている人もこういう人がいるときはこういうところにつなげばいいのねという、そういう交流の場のまとめ役をやっている人とか、子育てサロンに来てくださっている、あの人は自分で福祉

コンシェルジュではなくて、ママたまコンシェルジュという名前で来てくださったのですけれども、ママたまコンシェルジュって、どういうところで資格をとられたんですかと言ったら、私は赤ちゃんがおなかに入ったときに妊婦さんが穏やかに過ごせるようにとか、赤ちゃんが生まれたときにこういうやり方をしたら赤ちゃんが穏やかになるのよとか、あとはベビーマッサージとか、いろいろなことを教えている。その場でお母さんにいろいろな話をしながら、お母さんたちの困っていることを相談に乗ってあげようと思って、自分ではママたまコンシェルジュを名乗っているけれども、そこにはおばあちゃんもいらっしゃることがあるから、今度はお年寄りについても知りたいと思って来たのよとおっしゃったので、地域福祉コンシェルジュは、日常とかそういうことだけではなくて、いろいろな福祉に携わる人がいろいろなことを少しでも知っていて、つなぎ先をしてもらえれば、そこで気づいたときにつなげるという人を育てればいいのではないかなと。私は民生委員をしているのですが、民生委員の気づくところは少ないのですね。限られたところで活動しているから。ただ、その民生委員とそういう人たちがいろいろつながっているんで、そこでいろいろな情報をいただけたら、もっといい活動ができるし、地域がつながっていくかと思って、福祉コンシェルジュにはすごく賛成しているのです。

青柳副委員長 今のお話しに付随することがあれば、この場の席で、何かお話があったらしていただいたほうが、もうちょっと理解を深めてもらえるかもわかりませんよね。

小田委員 2年ほど前なのですけれども、宮崎に住んでいる私の友達なのですが、御主人の弟さんが、がんで、余命幾ばくもないという人なのですが、その方を自宅に引き取って、数年間、介護をしたのですね。そのために今までやっていたボランティアとか、地域のところでの活動をやめて、介護に専念したのです。義理の弟さんが亡くなって、その後、彼女は少し時間ができたりしたもので、近くの公園に、公園体操に行き始めたのです。そうしたら、町内会の方からスカウトされまして。というのは、彼女は宮前区の混声合唱団の樹林の創設時からのメンバーで、それはとても熱心にやっていた人なのです。それで、公園体操に行くと、そこで町内会の方から声をかけられて、その町内会でコーラスを立ち上げたのです。その友達が指導者になって、コーラスをやって。それはいろいろな地域のコーラス部とか、町内会のコーラスとか、樹林のような、ああいったところは、ミュージアなどで時々やりますよね。順番にやったり。樹林の場合は年に1回ぐらいコンサートをやっているのです。その町内会で立ち上げた町内会のコーラス部。それで、彼女がそこで指導して、今も現在やっているわけです。機会があると発表するところに行くと発表するという形で。そのときに、ピアノ伴奏する人が同じ町内に住んでいる人で、その人はたまたま東京の世田谷のほうに勤めていて、中学だか高校の音楽の教員をやっている人で、出られるときはピアノ伴奏してくれて、それで、コーラスをやっているという、そういった形で。その人

も介護が終わって、そのような形で、新しい活動の場を、彼女の場合、たまたま与えられたという形にはなっているのですけれども、それで意外と忙しく、また新しい活動をやっているのです。それで2年か3年くらいたつのかしら。

もう1つは、今いろいろなところで使い済みの古切手を集めているのですね。それは集めて持っていく大もとは、キリスト関係の団体なのです。そこに持っていくと、東南アジアの車椅子になったり、ワクチンになったりするのです。古切手が集まると。今、いろいろなところで集めているのです。私も集めてはいるのですけれども、その人も古切手集めを耳にして、町内の人たちに呼びかけて、かなりたくさん協力してもらって集めたと、そんな形があります。

地域福祉部会も、困っている人とか、孤独な人、将来に不安がある人など、お年寄りの方とか、ひとり暮らしの方とか、いろいろマイナス面を抱えて生活している方たちに手を差し伸べるというのか、上から目線ではないのですけれども、一緒にそういった状況に寄り添ってあげる、そういった形を目指しているというふうに私は解釈しているのです。でも、先ほど私がお話し申し上げたように、また別な形で、元気な方も、自分の活動の場を得て、それにかかわる人たちと一緒に元気になって、元気な方がさらに元気に過ごせる。自分の得意なものを使って、地域の中で輪を広げていく、そういったことも地域福祉部会の活動の広がりとしていいのかなというふうに今思っているところです。

川田委員長 ありがとうございます。

椿さん、いかがですか。

椿委員 地域福祉部会の椿と申します。

地域福祉コンシェルジュということで、大きな話かなと思ったのですけれども、今回の2回の講座をすることによって、やはりいろいろな形で地域をつなげていく、人をつなげていくということでは、とても重要な役割だなというのはわかりました。民生委員さんとかは本当にすごくいろいろやったださる方だと思うのですけれども、例えば私のような子育て世代ですと、実際、民生委員さんは、誰がどこにいらっしゃるのかなんて本当にわからないし、私は御縁がありまして、自治会活動をさせていただいていますけれども、実際に同じ世代のお母さんたちも、男の人も女の人もそうなのですが、自治会は一体何をしているところかとか、地域はどんな形で自分がかかわったらいのかというのを、具体的に、わからないけれども、先ほどお話がありましたが、やっぱり若い世代的にはこれから宮前区、川崎を背負っていく、その子どもたちを育てていくお父さん、お母さん世代も、地域はここがふるさととしていきたいなという思いはあるから、何かしたいという思いは必ずあるのです。

中でも、その世代で、高齢化を抱えている人たちは、介護をする人たちとか、その御本人の人たちも、いろいろな悩みがあったり、課題があったり、あと、子育て世代

はそれだったり、赤ちゃんを育てている人はいろいろ悩みがそれぞれ個別にあるところを、それを聞きやすいところに聞いていくようなところ、気軽に聞けてというのがコンシェルジュかなと思っています。

それが、どこどこに行けば聞けるよじゃなくて、役所に行けば聞けるよというのが一番いいでしょうけれども、役所が遠いとか、なかなか歩いて行けないという人たちもいっぱいいると、人は口コミがとても大事で、誰々さんがそこを聞いてきたわよというところから始まると、あの人はそういうふうに分けるのかな、聞いてみたらいいかしら、そこで聞いてみると、その人がコンシェルジュ。その人は例えばそれに関して詳しくなくても、コンシェルジュさんでこういう人たちがいるからという形でつなげていくのが一番いい理想なのかなと思っています。

それが実際どういうふうになって、どういう仕組みをつくっていくかというところ、ちょっと難しいと思うのですが、コンシェルジュというのは、そういう形で、人と人をつなげていくとか、みんなが困っているところを何かつなげて、そういう解決にする糸口をつくってあげていくのではないかなと思っているので、最初、すごく漠然としていて、私も何ができるのかなと思っていましたけれども、最初は高齢化の問題とかから入っていきましたが、実際の子育てだったり、地域に住む子どもたちでもつなげていけるものではないかというふうに感じています。

川田委員長 ありがとうございます。今のお話を聞いて、特別な役割ではないんですね。隣近所にいる方が、誰かに教えてあげたくても、知識がなければ教えてあげられない、つなげられない、そこで地域福祉コンシェルジュになって、そこでいろいろ学ばうわけですね。その学ぶことで、それをお茶飲み話でもいいから、伝えてあげる、そして、つなげてあげる、こういった方たちが、たくさんそこら辺にいれば、もっと住みやすくなるのかなというのが、今、椿委員のお話から感じました。

大久保委員、いかがでしょうか。

大久保委員 皆さんおっしゃられているので、今さらという気はするのですが、最初、例えば3ページの地域福祉コンシェルジュ構想の役割の※の一番下に「認定や資格・登録制ではない。市民運動的に広げていく構想」を目指している。これはふわっとしているし、ぼやっとしているし、こんなので本当に大丈夫なのというふうに多分思われるでしょう。ただ、逆に言うと、今まで資格だの登録だのというのをやっても、それなりにうまくいかなかったのは何だろうとも考えるわけです。今、川田委員長がおっしゃられたように、何かを知っているということは重要です。何かを知りたいと思っている人を自分は知っている、あるいは誰が知っているのかということを知っている、誰が知りたいのか知っている人を知っている、何を知らたいかということもわかっている。これは突き詰めていくと、誰もが何かを知っていて、何かを求めている人も知っている。これは究極のコミュニティ、すばらしいコミュニテ

ィのあり方なのだろうというふうに思うのですね。

私も宮前区に住んで三十有余年になりますけれども、よく考えてみると、それほど地域のことも知らないし、隣近所の人のことわからないけれども、誰か知っているとなれば、何かを通じて知っているし、その人の何か特徴のあることを通じて自分は知っている、そういうようなものの1つの媒体というのですか、きっかけみたいなものが地域福祉である、あるいは自分のかかわる福祉的な生活であるというふうに考えたときに、非常に難しいのかもしれないけれども、根本に立ち返ると、要はコミュニティづくりに行きつくのであって、それは地域を活性化するというところとまさにぶつかっていく、つながっていくところでもあるし、非常におもしろいのではないかな。ちょうど宮前区が、お配りいただいたものもそうですけれども、区としての特徴の中にこういう福祉系のことが非常に強くある区であるとするならば、先進的に、あるいはもっともとに戻って、コミュニティづくりをこういうものをきっかけにやっていけるとすれば、すごくいいなというふうに思っています。

川田委員長 ありがとうございます。一通り、福祉部会の委員の方たちの思いを聞いていただきまして、この中で地域福祉コンシェルジュ構想ができ上がったということで御理解いただけますでしょうか。ありがとうございます。

ということで、あとほかに質問とか、聞いてみたいお話はございますか。なければ、そろそろ今までの審議の報告を終了いたしまして、フォーラムの話に入っていきたいと思います。岩下さんからお願いいたします。

事務局（岩下） それでは、資料3の10ページをごらんください。途中で今後のスケジュールも踏まえてお話しさせていただきたいと思います。

区民会議フォーラム2018についてです。毎回、各期の締めとして行ってきたものを今期もやろうというものです。ということで、目的は、第6期宮前区民会議の活動・組織・提案等をより多くの区民の方に知っていただくということが1つ、さらに、できれば、その提案に基づく体験とかを企画して参加していただいた方に賛同、これから担っていただく方を獲得したり、御意見を伺う場として考えております。一度皆さんにも日程等の調整をさせていただいていると思いますが、日時ですけれども、第1候補は3月17日（土）の午後、第2候補が3月10日（土）の13時から16時、3時間程度ということで、ここはきょう決定できればと思っております。会場はこの日を前提として、今皆さんもいらっしゃるこの大会議室は確保できているところです。

ここでこの資料の2ページに戻っていただいて、ここで今後の進め方とも絡んでくると思うのですが、真ん中よりちょっと下に10、11、12とありまして、これは10月、11月、12月を示しています。今までの活動経過と今後の予定もちょっと入っております。真ん中の矢印より下が企画部会、全体会議ですけれども、きょう、日程を決めたい、3月10日か17日、中旬の区民会議フォーラムが一番下にあります。その前に、2

月9日にもう1回、全体会を開催する予定になっております。先ほども今までお話が出ましたけれども、その前に、両部会とも最後もう1回必要かなと事務局は考えております。それは上のほうを見ていただくと、活性部会、地域福祉部会、それぞれありますけれども、今のところ考えているのは、1月後半から2月の頭、つまり、次の全体会の前にもう1回、両部会、それぞれ1回は開催し、提案の最終的なまとめということと、区民会議フォーラムの企画の決定、準備で必要と考えております。

それを踏まえて、10ページに戻っていただきまして、日程もこの後決めたいのですが、フォーラムで何をしようか、企画ということですね。今までのお話と、先日の企画部会で出た意見をベースに、現時点の案を今から御紹介させていただきます。

基本的にはこれまでのフォーラムのように、両部会からそれぞれ取組提案、検討内容に基づく企画を実施してはどうかということです。ただ、この間、企画部会で出ていたのは、今までは分科会形式で、来ていただいた方に、どちらか選んで参加していただくという形になっていたかと思いますが、今回は多少それぞれの時間が短くなっても、全ての参加者に両方体験してもらえるといいのではないかとということが企画部会での御意見でした。

今回、福祉部会のほうは、コンシェルジュ構想推進講座、何回かやって、それに参加していただいた方々、活性部会のほうは、地域でお友達・お仕事さがしをやってきて、それに参加してくださっている方々、それぞれいまして、フォーラムについても、まず、両方の参加者については、間違いなく声をかけるし、来ていただきたい方になるのかと思います。そういった方々に、もう一方のテーマについても体験してもらおうことで、それぞれ活動に熱心のことですから、つながる部分もありますし、新たな意見とか聞けるし、お互い、参加者が確保できるのではないかとということで、両方体験してもらおうような形はどうかということが1つありました。

次に、企画部会で話した案ですけれども、まず、地域福祉部会の企画については、第3回地域福祉コンシェルジュ構想推進講座をやってはどうかということです。テーマ案なのですけれども、両方の部会を体験してもらえる、若い世代にも聞いてもらえる内容がいいのではないかとということで、1つ案として出たのが、若いうちから知っておきたい介護・相続に関してお話をするような形で、例えばこがも会でそれをテーマにして活動していらっしゃる方がいるので、そちらの方を講師に招いてやってはどうかという案が出たところです。

もう一方、活性部会のほうですけれども、仮称ですが、みやまえメッセとSNSお披露目会ということです。メッセのほうについては、本当はマルシェをやって、参加いただいた作家の方々、どんどん販売等もしていただきたいのですけれども、あくまで区の事業の報告会で、区役所が会場ということで、販売は難しいということですので、ただ、やっぱりせっかくこれまで参加していただいた作家さんや作品を持ってい

る方々に、見本市のような形でいろいろ出展していただいて、いろいろ参加した方が興味のあるブースに行ってちょっと説明を受けたり、作品を見て感想を言えるような場ができるといいかなというイメージです。例えば仮想通貨をやりとりしたりとか、自分が気に入った作品には、「いいね！」と投票してもらえるような仕組みをつくって、売ることはできないのですけれども、作品に対する評価とか感想がダイレクトに出展した人ももらえるような仕組みにできるといいのではないかとというのが、みやまエッセ（見本市）です。

もう1つは、今回、SNSを設置して準備して、これから盛り上げていきたいということがありますので、それをお披露目させていただいて、QRコードとか、アドレスを書いたカードも配ったり、こういう情報が欲しいので、皆さん、どんどん参加してくださいよ、フォローしてくださいというプレゼンの場合は1つ持てるといいかなという案になっております。

それから、3番、全体会としては、区民会議の紹介ですとか、参加いただいた企画に多少感想、意見を伺う場をきちんと持とうということ、それから、今までもやってきましたけれども、カフェサービスですとか、季節的には何か温かいものがサービスできるといいのではないかとという案も出てきております。これは調整がある程度必要かと思えます。

もう1つ出たのは、過去の区民会議フォーラムでも記念品を配ったこともありますが、参加記念品を何か喜んでいただけるものが配れたり、集客にも資するようなものがつくればいいのではないかとということで、例えば宮前兄妹グッズ、過去はマグネットとか、ペンとかをつくったことがあったのですが、今回はマスキングテープなどをつくったらいいのではないかとという御意見が出たところです。

以上ですが、きょうのところは、まず1つは、日程を決めたいということと、あと、もう1回、部会を持つということであれば、細かい企画はそこでもう1回練る機会はあると思いますが、現時点の案について御意見等あれば、残りの時間でいただければと思います。

川田委員長 ありがとうございます。

それでは、今出ました2点ですね、区民会議フォーラムの日程と、それから、2月9日の最後の第8回区民会議の前に、各部会、もう1度持ちましょうという提案がございました。各部会の日程につきましては、後ほど事務局のほうから日程の調整をまた送っていただきまして決めるという形でよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、フォーラムのほうですけれども、こちらにとりあえず、3月17日が第1候補、3月10日が第2候補ということで出ております。第1候補、3月17日(土)1時から4時までということで決めさせていただけるかどうか。だめな方、いらっしゃいま

すか。

山部委員 17日は出られません。

川田委員長 わかりました。それでは、3月10日はいかがでしょうか。だめな方、いらっしやいますか。10日でしたらば、皆さん、出られるようです。3月10日、だめな方はいらっしやらないようですので、第2候補の3月10日ということによろしいでしょうか。では、フォーラムのほうは3月10日（土）1時から4時まで、こちらの大会議室ということで実施いたします。

日程の調整につきましてはこれで終わってよろしいでしょうか。ありがとうございます。

それでは、本日、両部会の報告を終了いたしました。それから、フォーラムの日程も決めました。予定外ではありますけれども、それぞれの部会の日程調整については、後日、事務局からということが決まりました。

ここで田辺さん、何かございますか。

田辺委員 今、岩下さんのほうから企画について御意見ということで、企画内容についての意見、よろしいですか。

先ほどのコンシェルジュについての私の素朴な疑問に対して、地域福祉部会の皆さんから非常にいい御意見というか、御感想というか、拝聴させていただきまして、大変よかったと私も感動しております。

そこで提案なのですが、企画の1番で、私、よく知っていますけれども、こがも会さんによる地域福祉コンシェルジュ推進講座を御提案されているのですが、私はむしろ、区民会議フォーラムの目的というのは、我々の提案について、広く区民に理解していただいて、多くの賛同者を得て、できるだけ実施できやすい環境をつくっていくのが目的だと思っているのですよ。そういう意味では、先ほど地域福祉部会のそれぞれの皆さんがすばらしい御意見をお聞かせいただきましたけれども、ぜひともここでコンシェルジュの構想をしっかりと説明して、いろいろな方々の御意見を聞くのが真っ当な方法ではないでしょうか。もちろんコンシェルジュをふやすための講座も大事ですけれども、それはこの制度がスタートすればいつでもできる話なので。それが第1点です。

それから、今回は、部会を2つに分けないで、1つで両方の部会の話をするということでしたよね。そうしますと、2番の我々の活性部会、AとB、2つはちょっと厳しいのではないかなと。これは3時間という中で、両方の部会をやるとなると、活性部会としては、どちらか1つ。どちらか1つというなら、Bの実際のSNSでのコミュニケーションのとり方のような説明のほうがいいのかなという気がします。どちらでもいいのですけれども、少なくともA、B両方ではなくて、どちらかだけでいいのかなと私は思いました。

川田委員長 ありがとうございます。これはあくまでも提案として出されたものでございますので、今の田辺委員の御意見をいただきまして、今後、福祉部会のほうも、今度、部会の中で、それを踏まえてもう1度内容を検討するというところでよろしいでしょうか。

フォーラムのときに一緒にやるのはというところでは、それぞれが、今の提案とは違うものがまた出てくるかもしれませんね。それと、福祉部会のフォーラムでのこういう内容と、それから、活性部会のフォーラムでの内容が果たして一緒にやって無理のないものかどうかというのは、そこではっきり決まってからじゃないと出てこないと思いますので、そのすり合わせは今後その後にするということではいかがですかね。なるべく早く、それぞれの部会の日を設定して、意見を持ち合いまして、また企画部会を開催していただいて、そここのところですり合わせて、どちらにするかというふうに決めても大丈夫ですかね。事務局、それでよろしいですか。

じゃ、その流れで日程を調整してください。今、確かに田辺委員の意見、とてもいい意見が出ていると思いますので、そういうものも取り入れて、皆さん、検討していただいて、最初のこれでいいよという、それでもいいわけなので、あくまでも部会で話し合うことが大事だと思いますので、よろしく願いいたします。

それでは、議題が終わりました。

渡辺参与、矢沢参与、お2人に関しては、最初のころからずっと区民会議、ごらんになっていただきまして、本当にありがとうございます。また、本日の審議の報告などをされましたけれども、そちらの御感想なども踏まえまして、何か御意見をいただければと思います。

それでは、渡辺参与よりお願いいたします。

渡辺参与 きょうはありがとうございました。久しぶりにスタートから皆さんの意見交換を聞かせていただきました。宮前区、どういうまちにしていこうかということで、ダイナミックな活動が見えたかなというふうに思います。生活の課題というか、課題の入り口の話、今お話に出ていたコンシェルジュも、例えばさつき子育て世代のお母さんたちが公園でマルシェ、それも生活の課題が見える、本当に入り口のところから、そこに市民がかかわって、活動を進めていくのかなというふうな印象を受けていますが、もったいないと思ったのは、きょうも松浦さんいますけれども、みまもり支援センターと連携をつくっていったら、もっといいかなというふうに思いました。

以上です。

川田委員長 ありがとうございます。

それでは、矢沢参与、お願いいたします。

矢沢参与 本日はまことにありがとうございました。冒頭、遅刻をしてしまいまして、済みません、持田文男先生含めて、同じ会に出ていまして、その関係で遅くなってしま

いました。

今、途中から私もお話を聞かせていただいたのですけれども、まず、地域福祉コンシェルジュのことですね。実は渡辺参与と全く同じことを思っていて、今まで周りを見回してみると、基本的に自治体がそういったことを先駆けてやっているところがふえているのですね。何かというと、皆さんが今お話をされたような地域福祉相談員というか、福祉コンシェルジュというものを、名古屋市が一番最初にやったのですけれども、行政の中があまたある福祉制度を、窓口を一本化して、相談に来た人たちに対してつなげていく、そういったことをやってきた。そして、川崎市においては、今お話にあったとおり、地域みまもり支援センターがそういった位置づけになるのかなというふうに思っていて、行政のほうもあまたある制度を一本化しようとしている。そして、みずから地域のほうに入っていこうとしている。ですが、やはりまだ始まったばかりということもあって、太い血管の部分には行くのかなというふうに思っているのですけれども、地域というのは毛細血管でございますから、自治会に入っていない人も含めて、あまたある方々をしっかりと地域福祉につなげていくといった意味では、行政だけではやはり足りない。その中で、地域包括ケアの考え方もありますけれども、皆さんがこういうふうな場で地域福祉コンシェルジュというものを地域の住民の方々がお話をしていただくということは、私は聞いていて非常に意味があるなど、そのように率直に感じていた次第でございます。まだまだ細かいことを詰めていくと課題はあるのかなと思うのですけれども、発想とか、考え方は本当に素晴らしいものだなというふうに考えました。

みやまえ活性部会のほうなのですが、マルシェということで、地域で少しずつ親交の深いメンバーが、同じ趣味を持っているメンバーとかが、地域場でマルシェをやって、そしてつながりをまたつくっていく、これも本当に素晴らしいことだと思います。また、これからは行政も一体になって、そういった場の提供であったりとか、同じ趣味を持っているグループがまた別のグループともつながりやすくする環境であったりとか、さまざまな部分を横につなげていく、そういった仕組みづくりにも協力させていただきながら、皆様の意見をいただければと思います。きょうは貴重な御意見、ありがとうございました。

川田委員長 どうもありがとうございました。非常に力強い御意見をいただいたと思います。

みまもり支援センターと私たちと同じような思いでやっているとは思いますが、それぞれの立場が違います。それぞれの違う立場でできることをやっていくということがとても大事なのかと思うのですね。区民会議の委員は、そこで生活している生活者です。そちらだからこそ考え、実施できる、実行できる意見が出てきていると思うのですね。これは行政の役割とは違うものだと思うのですね。そこまでは行政は来ら

れないですから、そういう面では、区民会議の場というのはとてもいいのではないかなど、それぞれの違う役割の人同士がお互いの意見を聞きながらすり合わせていて、1つにできるというところでは、とても貴重な場ではないかなというふうに思いました。ありがとうございました。参与の方たちも、あと1回ございますので、ぜひ参加していただければと思います。

それでは、本日の報告は終了したいと思います。堤副区長のほうにお戻しいたします。ありがとうございました。

### 3 その他の連絡事項

司会（堤） 川田委員長、どうもありがとうございました。本日は長時間にわたりまして御報告をいただき、また、丁寧な御説明もいただきまして、まことにありがとうございました。

この後、事務連絡等がございます。企画課の小西へかわらせていただきます。

事務局（小西） それでは、事務連絡をさせていただきます。

先ほど川田委員長のほうからお話がありました、部会の日程の調整については、後日、私のほうから御連絡させていただきますので、よろしく願いいたします。

次に、委員の皆様のお手元に配付してあります区民会議意見交換会のお知らせと、意見交換会への参加確認票の御説明をさせていただきます。

例年2月ごろ、各区の区民会議の委員の皆様の情報交換や連携といったことを目的に、区民会議交流会が開催されておりましたけれども、今回はこれまでの区民会議での活動を振り返り、検証するとともに、今後のコミュニティ施策の検討につなげることを目的にした意見交換会という形で開催がされます。日程が、お知らせにもありますとおり、2月2日（金）、会場は、JR南武線の武蔵中原駅のすぐ近くのエポックなかはらで行われます。時間は、18時から20時30分を予定しております。つきましては、委員の皆様の出欠について確認させていただきたいと思いますので、参加確認票に御記入の上、御提出をいただければと思います。今お配りしている紙をそのまま提出していただいても構いませんし、使わなくてもメールや電話で出欠の連絡をいただくことでも構いませんので、12月22日（金）までに企画課宛て御回答くださいますようによろしく願いいたします。

参加人数につきましては、各区7名程度を予定しておりますので、大幅に超えるような人数の参加の希望があった場合には、少し人数の調整をさせていただく場合もございますので、あらかじめ御了承ください。

それから、区民会議委員の皆様につきましては、今お配りしていないのですけれども、後日、意見交換会にも関係するアンケートを送付させていただきます。アンケート

トの結果については、意見交換会において活用させていただきたいと思いますので、意見交換会には出席されないという方もぜひ御協力をお願いいたします。

事務局からは以上です。

司会（堤） それでは、これにて本日の会議は終了とさせていただきます。どうもありがとうございました。

川田委員長 終了したのに申し訳ございません。12月3日の福祉フェスティバルにつきまして、老門実行委員長からお話があります。

老門（泰）委員 終了したところで恐縮でございますけれども、あさって、みやまえ福祉フェスティバルということで、従来、社会福祉大会という名前を、今回、福祉フェスティバルに変えました。今、福祉部会さんから御説明があった、「まいcafeみ～や」は、ここで具体的な形として登場いたします。それから、認知症フォーラムが、先ほどの気づきとか、コンシェルジュの1つのケーススタディかなと思ひまして、いろいろ幼児からお年寄り、それから、障害を持つ方、例えば障害を持つ方については、ことしはパラリンピックなんかに出るボッチャとか、車椅子バスケット、実際にバスケットのゴールをつくって、模擬的にやっていただくとか、そういうことをいろいろ企画しておりますので、ぜひとも皆さんに御参加いただければと思います。地域福祉部会で作成したランチョンマットは「まいcafeみ～や」で使われるものでございます。ということで、よろしく願いいたします。

川田委員長 皆さんのお手元にもランチョンマットの見本があると思うのですがけれども、この絵を見ましても、区役所のメロー、コスミンと社協の宮太郎というキャラがコラボしてありまして、区役所と社協がコラボしたカフェになります。今後、カフェ、サロン、身近で行ける居場所を多くつくっていこうということで、その内容としてはこういう内容があればいいのではないかとするのはここで実践する、そして、ここの地域福祉コンシェルジュの方、この間推進講座を受講した方たちにもいていただいて、お話相手をしながら、もしつなげるところがあればつなげていただくというふうに、ここの場で実践していこうと思いますので、時間がありましたらぜひお寄りください。「まいcafeみ～や」、いいでしょう、「宮前区の私のカフェ」ですよ。「まいcafeみ～やブレンド」というコーヒーもつくっております。非常においしくできておりますので、ぜひいらしてください。

失礼いたします。ありがとうございました。

午後7時56分閉会